

令和2年度

木頭小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 自分の考えを分かりやすく表現できる力の育成
- 振り返りを大切にし、主体的に学習に取り組もうとする児童の育成

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員
 中田 那月 校長 谷 浩行 教頭 田村 卓也
 6年担任 柳本 晃佑 5年担任 佐藤 仁昭 2年担任 齋藤 敦己
 1年担任 原 真由美 特別支援6年担任 兼任 ひかる
 特別支援1年担任 中田 佳奈 養護教諭 宮本 果菜

校長

谷 浩行



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○人の話を聞く態度が身に付いてきており、課題に対して真面目に取り組むことができる。 ●文章を書くことが苦手な児童が多く、知識・技能の習得に個人差がある。	・学習習慣や学習態度が定着し、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けることができる。 ・語彙が増え、記述問題にも意欲的に取り組むことができる。	・小テストや反復学習を行う。 ・少人数の強みを生かし、個に応じた指導を行う。 ・家庭学習の手引きを活用し、発達段階に適した課題を出し、学習習慣の定着を図る。 ・積極的に活用問題に取り組んでいく。			

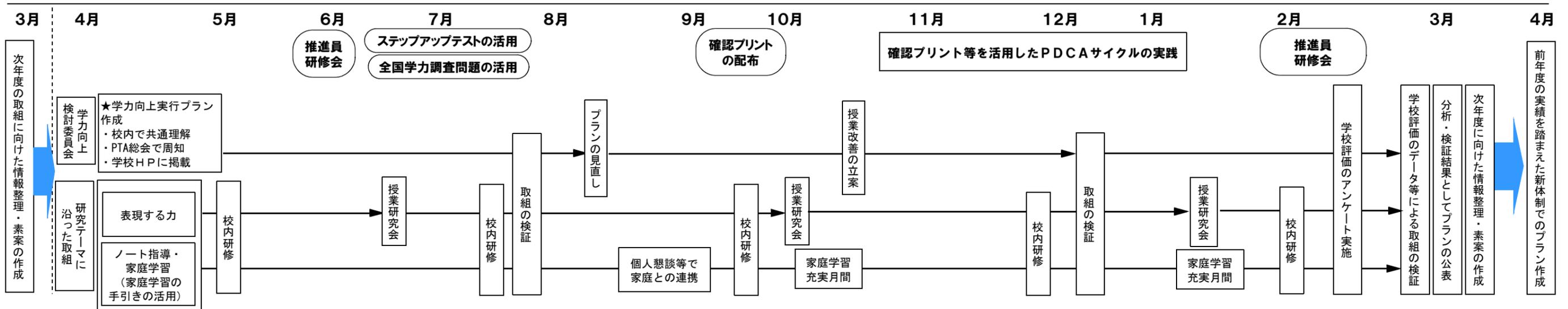
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全体の前でも進んで意見発表ができる児童が多く、理由や根拠を自分の言葉で伝えようとする意欲が見られる。 ●他者の意見から自分の考えを深めることが苦手な児童が多い。	・他者の意見と比べながら自分の思いや考えを深め、筋道を立てて話したり、書いたりすることができる。	・他者の意見を聞く場を意図的に設ける。 ・ホワイトボードやタブレットを活用した学習を工夫する。 ・思考力を深めるような資料の提示や発問の工夫を行う。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題や興味関心のある学習に対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●自ら課題を見つけ、自分なりの目標を立てることができない児童が多い。	・主体的に課題に取り組み、自分の目標に向かって最後まで取り組むことができる。	・ノートコンクールを実施し、手本になる児童のノートを紹介する。 ・小中異学年交流での学習を行い、自分の将来へのイメージをもたせたり、主体的に考えたりできる場を設ける。 ・常に振り返りをし、自己評価を適切に行わせる。			

令和2年度 学力向上ロードマップ



令和2年度

木頭中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 少人数の強みを生かして、個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせ、主体的に学習する力を伸ばすための指導の実践
- 話し合い活動を充実させ、根拠を明らかにして自分の考えを論理的に説明する能力を身に付けた生徒の育成

学力向上検討委員会構成

- | | |
|-----------------|---|
| 学力向上推進員
倉田 唯 | 委員
校長:谷 浩行 教頭:磯部 茂仁
教務主任・第二学年主任・研修主任:大岩秀樹
人権主事・第三学年主任:久米純矢 |
|-----------------|---|

校長

谷 浩行



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いており、課題に対して前向きに取り組める生徒が多い。 ●漢字や語彙力に乏しい生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることができる。 ・習得した知識と既習の知識が関連付けられ、他の学習の場面でも教科横断的に知識を活用することができる。	・少人数の強みを生かして、机間指導の充実や再テストの実施など、個に応じた指導を行う。 ・施設一体型小中一貫校の特性を生かして、他教科や他校種の教員が相互に授業参観を行う。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の感想・意見を自分の言葉で表現することができる。 ●論理的に説明したり、話したりすることを苦手としている生徒が多い。	・自分の考えを根拠や理由を明らかにしながら説明したり、書いたりして伝えることができる。	・学習活動全体の中で、自分の考えを論理的に説明したり、書いたりする機会を設け、その際、ホワイトボードやタブレットを使用するなど、学習スタイルの工夫を図る。 ・異学年交流での授業を積極的に行い、他学年と話し合い活動を行う場面を設ける。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学校の規律をしっかり守り、各授業へ意欲的に取り組み、積極的に発表することができる。 ●家庭学習習慣が身に付いておらず、自ら課題を見つけ、主体的、計画的に学習に取り組む姿勢が身に付いていない生徒が多い。	・主体的、計画的に家庭学習や課題に取り組むことができる。 ・自分の夢や目標に向かって、努力することができる。	・生活時間記録を毎日記入させ、時間の使い方について考えさせる。 ・すべての教員が教科横断的にキャリア教育を行い、将来の夢や目標をもてるような授業を行う。 ・「めあて」の提示と「振り返り」の時間の確保を徹底して行う。			

令和2年度 学力向上ロードマップ

